



秋冷お成る後御全家族益
 御機嫌能はる在 珍重は儀奉相
 願ふ却説多う及まはる日 鶴島以
 る件を愛して無根 無支をいふと
 自由新書掲裁治し作法に
 落下し所煩い懸けし 叔父の事と
 ありまお價不堪驚愕彼の奸黨
 昔の所ぬり及ること何ふ以
 御難多む裁判し元子花着
 と何しま方いことにて 承え礼の中
 宜し閣下、若し其甚なる痛多
 り量に裁判上、元子遊人のふと
 申し又お方の御書の一件致々の
 る何し申し様なき由まふも 縁
 六の暗愚奸曲黨の欺く所とあり
 ち及ふに御行る多ふといやしなま
 畢竟親戚の我々不行偏の致す
 此らに御一い言の痛入外なき由何
 事し生冤は容赦と成る宜し
 早は上京には長く候へば
 先より慢麻質病にお罹り甚
 難治は只今娘生中し、これ御不
 知下共禮書面より及し此は
 情し多う哀愍の候首

十月九日

御書再取

大隈様

所家令ノ申

